

九 月 の 天 象

太 陽

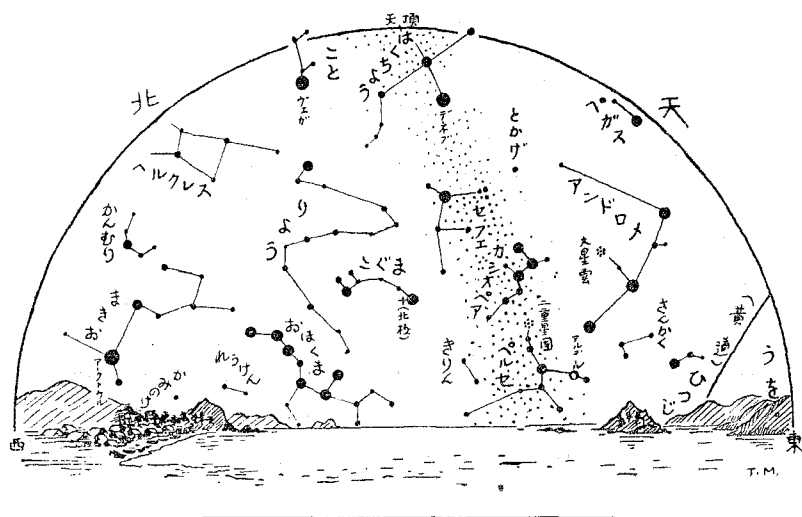
日	赤 經	赤 緯	視直径	星 度
1	10時39分50秒	北8度27分	31分45秒	し し
11	11時15分55秒	北4度44分	31分50秒	し し
21	11時51分48秒	北0度53分	31分55秒	をとめ
(31)	12時27分50秒	南3度 0分	32分 0秒	をとめ

月始めは處女宮にあり、8日にその中央を通過するが、24日には天秤宮に侵入する。即ち此の日は秋分であつて、晝夜平分の日、日出は午前 5時49分、日没午後5時55分である。

月

月の相	時 刻	直径視	星 座
満 月	8日午前11時47分48秒	29分32秒	みづがめ
下 弦	16日午前 6時12分42秒	31分42秒	う し
新 月	22日午後 8時41分36秒	33分 5秒	をとめ
上 弦	29日午後11時57分48秒	30分 6秒	い て
遠地點通過	6日午前 6時54分	29分25秒	や ぎ
近地點通過	21日午後 1時54分	33分13秒	し し

今月の遊星歴訪を述べると、先づ 2日午後4時に土星を追ひ越して、其の南側5度の所を通過する のが最初である。次ぎは 10日の午後11時に、天王星と出合つて、先月同様に掩蔽を起す。今月は、我國からも 見る事が出来るのであるが、月光が強くて、餘程大きな 望遠鏡でないと、天王星をとても見る事が出来まい。17日午前4時には火星と出合つて、その北5度を通り、同日午後11時には木星に追ひ付いて、同じく北5度の所を通る。21日午前3時に海王星を追ひ越し、22日午後 3時には水星の、すつと北側を通り過ぎる。26日午前5時には金星に出合つて、その北側2度の所を通り。29日午後11時には、再び土星に追ひ付いて、その南側6度を通過して、今日の歴訪を終る。



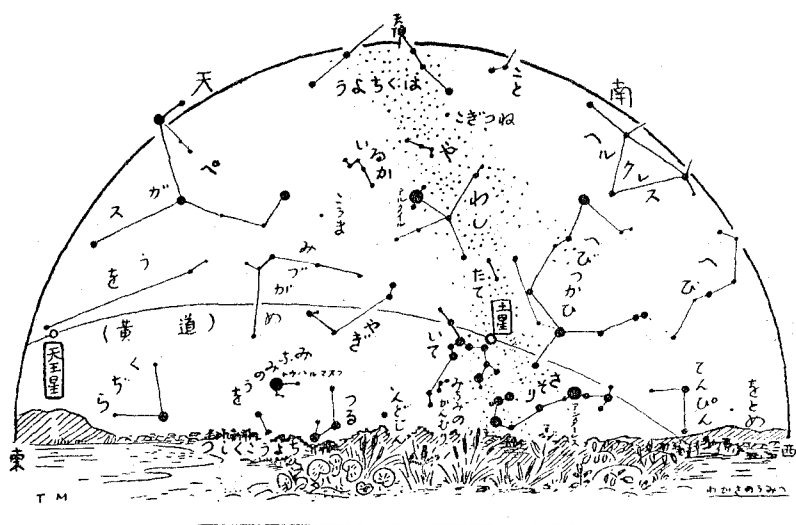
恒 星 界

日が西に没してふと、九月の空には、七夕の夫婦星の後を追ふて、「はくちよう」の北の十字星座が、吾等の天頂を占領し、また、此れを貫く、天の河は、既に其の流れの方向を東北から西南へと變へてゐる。「はくちよう」座は廣い星座であつて、二重星、三重星、變光星、星雲等と、實に見る可きものが多い。殊に時々新星が現はれるので、注意を怠るわけに行かぬ。

南天には「やぎ」、「みづがめ」、「うを」などの、淋しい星座が相ひ續いて進んでゐる中に、只、「みなみうを」のフォマルホウト星が、我物顔に輝いて居るの丈が目を惹く。

しかし、夜が更けると同時に、天頂には「ペガサス」が追つて來、そのあとからは、「アンドロメダ」、「カシオペア」、「ペルセ」等の秋らしい星座が、續々と登り、夜半には東南の空に「くぢら」が見える様になる。

「まきを」、「おほくま」、「りようけん」等は西の空に低く、これに代つて、「さんかく」、「ひつじ」等が登つて來る。



遊 星 界

水 星 月始めは宵の西空に見え、8日の停留以後は逆行に移り、21日には太陽と内合となるので月の後半は観望不能。月初めの位置は $\angle$ をとめ $\cap$ 座 η 星の南。視直径8秒。光度正1等級。30日に停留で、以後順行に移る。

金 星 宵の星。月初め $\angle$ をとめ $\cap$ 座スピカ星に近く、順行して月末には $\angle$ てんびん $\cap$ 座中に到る。12日に東方最大離角46度に達し、以後は徐々に太陽に近付く、月始めて視直径21秒、月末に31秒。光度負4等。月初め丁度半月型であつたが次第に缺けて5日月位ひとなる。

火 星 夜半出現、 $\angle$ ふたご $\cap$ 座西端より順行を続け、月末には同座中央より稍東に進む。27日朝、木星と40分餘りの距離を距て、相並ぶ、光度1等、視直径6秒餘り。

木 星 夜半出現、火星に近く、光度は一等半。視直径34秒。 $\angle$ かに $\cap$ の中央。

土 星 宵に南中する、未だ観望には都合よく、視直径も15秒であり、光度も正半等。 $\angle$ いて $\cap$ 座の中央にあつて、9日の停留以後は順行に移る。

天王星 宵に東天に登る。 $\angle$ いて $\cap$ の中央にあり。視直径3秒半、光度6等、10日には月に掩蔽される。

海王星 曉の星であるが未だ太陽に近く、観望出来ない。